

平成 26 年 4 月 9 日

各 位

公益財団法人経営者顕彰財団

平成25年度「第41回経営者賞」受賞者決定のお知らせ

公益財団法人 経営者顕彰財団（理事長 久保田勇夫）は、九州・山口地方において産業の開発、経済・文化の発展に寄与する中小企業及びその経営、技術に関する貢献者を毎年表彰いたしております。

標記表彰について平成 25 年度の受賞者が決定しましたのでお知らせいたします。

表彰式を平成 26 年 4 月 24 日に開催いたしますので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 「第41回経営者賞」受賞者

■「第41回経営者賞」 ※賞状、副賞を贈呈

受賞者氏名・肩書・企業名	地域	受賞理由
きかい とよさく 境 豊作 名誉会長 かぶしきがいしゃ う え す と 株式会社ウエスト	福岡市	1. 当社は、昭和 41 年 3 月の創業以来、48 年間で 181 店舗まで拡大、福岡県内では第 1 位の店舗数、全国のチェーン店数でも第 3 位を誇り、当社独自の制度による地域に親しまれる店舗づくりを展開、飲食業という競合の激しい業界にありながら堅実な経営を実践し、新業態の開発にも積極的に取り組んでいること。 2. 当社の発展の基礎は、境豊作氏が創業以来、当社の基本理念にもなっている「お客様の喜びと感動をお届けする」を哲学として、「経営は家業」という考えで社員を大切にしてきた功績によるものが大きいこと。 3. 地域貢献活動においても、売上金による寄付活動や地元企業への協賛、震災時の義援金活動などに取り組んでいること。
かわうち あきら 河内 旭 代表取締役会長兼 CEO さんゆう き き かぶしきがいしゃ 三友機器株式会社	福岡市	1. 当社は、食品製造機械・環境機械の設計施工を長年手がけ、その実績に裏付けされた技術力を生かし、清涼飲料業界の缶コーヒー、茶系飲料等の大量生産、ラインオペレーションの省力化を可能にする機械設備の開発・製造を次々に手掛け、工場設備のトータルエンジニアリング会社として確かな地歩を築いていること。 2. 「真面目にお客様に気に入ってもらおうこと」、「三友にいてよかったと社員が思える会社にし

		たい」という河内氏の誠実な人柄、熱心な営業力が、長年培った人脈を結びつけて社業の発展、清涼飲料業界の発展に寄与していること。
やまもと あつお 山本 厚生  代表取締役社長  かぶしきかいしゃ ふじこー 株式会社フジコー	北九州市	1. 鉄鋼関連の製品製造・販売・補修等を主業務として、鋳型補修や高度容射技術など 200 を超える特許申請・取得をして、たゆまぬ技術開発努力を続け、新規事業にも高度な技術を活かし新たな可能性に挑戦する地域の製造業としての存在感を高めていること。 2. 二代目社長として最初に経験した社員の大規模リストラを教訓に「社員を辞めさせる必要のない会社づくり」を生涯の経営指針として社員の福利厚生改善、人材育成に取り組んでいること。 3. 地域への貢献活動としてグループホームやデイサービスセンター等の高齢者福祉・介護事業に取り組んでいること。

## 2. 「第41回経営者賞表彰式」開催概要

「第41回経営者賞」の授賞式を以下の要領にて開催いたします。

日 時	平成 26 年 4 月 24 日(木) 11:00～13:00 (受付開始 10:30)
場 所	グラントハイアット福岡 3 階「ザ・グラント・ボールルーム」 (福岡市博多区住吉 1-2-82)
内 容	○ 授賞式、祝賀会 「第41回経営者賞」表彰及び受賞者の方々の活動紹介と祝賀会
定 員	約 100 名 (招待者のみ)
主 催	公益財団法人経営者顕彰財団
共 催	株式会社西日本シティ銀行

### 【参考】

#### 平成 25 年度候補者推薦状況

九州・山口地方の各県・政令指定都市の行政機関、商工会議所、新聞社、西日本シティ銀行本支店等から平成 25 年 10 月末までに推薦を受けた候補の状況は以下のとおりです。

< 県別 >

福岡	佐賀	熊本	宮崎	長崎	大分	鹿児島	山口	合計
20	1	2	1	1	1	1	—	27

本件に関するお問い合わせ先  
 公益財団法人経営者顕彰財団 事務局 河部・井口 いのくち  
 TEL 092-472-1676

## 第 41 回（平成 25 年度）経営者賞

氏 名	境 豊作 氏 (TOYOSAKU SAKAI)		
生年月日(年齢)	1925 年(大正 14 年)9 月 23 日 (88 歳)		
企業名・役職	株式会社ウエスト・名誉会長		
所在地	福岡市博多区三筑 1 丁目 5 番 8 号		
事業内容	飲食業		
資本金	97,900 千円		
主要株主	境豊作(10%)、若山和夫代表取締役(7.0%)、中野泰宏(4.3%)等		
従業員数	約 3,000 人		
創業・創立	創業 1966 年(昭和 41 年)3 月		
工場・営業所	181 店舗 (福岡県 120、熊本県 24、佐賀県 15、大分県 7、長崎県 2、山口県 2、 埼玉県 2、千葉県 8、東京都 1)		
関連会社	W&E Hospitality, Inc, Teaneck West Realty, Inc, East Boy, Inc. (米国) (株)西文、有限会社稲垣ウエスト、有限会社河津ウエスト		
年間業績 (単位:百万円)	売上高	経常利益	自己資本比率
2013 年 2 月	13,321	362	12.1%
2012 年 2 月	12,535	391	10.4%
2011 年 2 月	12,877	486	8.1%
2010 年 2 月	13,339	471	4.6%
受賞理由	<p><b>【主な受賞理由】</b></p> <p>1. 当社は、1966 年(昭和 41 年)3 月の創業以来、48 年間で 181 店舗まで拡大、福岡県内では第 1 位の店舗数、全国のチェーン店数でも第 3 位を誇り、当社独自の制度による地域に親しまれる店舗づくりを展開、飲食業という競合の激しい業界にありながら堅実な経営を実践し、新業態の開発にも積極的に取り組んでいること。</p> <p>2. 当社の発展の基礎は、境豊作氏が創業以来、当社の基本理念にもなっている「お客様に喜びと感動をお届けする」を哲学として、「経営は家業」という考えで社員を大切にしてきた功績によるものが大きいこと。</p> <p>3. 地域貢献活動においても、売上金による寄付活動や地元企業への協賛、震災時の義援金活動などに取り組んでいること。</p> <p><b>【当社の概要】</b></p> <p>1. 経営理念・哲学          ≪会社の経営理念・哲学≫</p>		

## 第41回（平成25年度）経営者賞

<p>・基本理念「お客様に喜びと感動をお届けする」</p> <p>・この基本理念の実現に向けて「真心のこもったサービスと料理を通じて楽しい食事のシーンを実現し、人と人の絆が深まる空間づくり」を目指した店舗展開を実施。主力のうどん店、焼肉店の他にも中国料理やカフェ、ビストロなど常に新しい業態の開発に取り組む。</p> <p>≪候補者本人の経営哲学・人物像≫</p> <p>・境氏は同社の基本理念にもなっている「お客様に喜びと感動をお届けする」を哲学として、「経営は家業」という考えのもと、社内制度の充実も図り社員を大切にされた経営を行っている。</p> <p>（略歴）</p> <p>西南学院(旧)経済専門学校卒</p> <p>1966年(昭和41年) 3月 ドライブイン経営に着目、同社を設立。</p> <p>1967年(昭和42年)12月 代表取締役役に就任。</p> <p>1976年(昭和51年) 6月 代表取締役会長に就任。</p> <p>2008年(平成20年) 2月 同職を退任。</p> <p><b>2. 業歴、業績</b></p> <p>・2014年(平成26年)2月期時点での店舗数は181店舗と、福岡県内では第1位の店舗数、全国のチェーン店数でも第3位を誇る。</p> <p>・売上高はここ数年130億円前後を維持しているが、2010年度(平成22年度)から2012年度(平成24年度)にかけて中期経営計画において不採算店舗の閉鎖と経費削減を実施し利益率の改善を図り、2013年度(平成25年度)からは積極的な新規出店を開始した。</p> <p>（沿革）</p> <p>1966年(昭和41年) 福岡店オープン(ウエスト1号店)</p> <p>1972年(昭和47年) 立ち食いうどん「24時間営業」スタート</p> <p>1973年(昭和48年) 粗利折半方式スタート</p> <p>1983年(昭和58年) ニューヨークに和食レストラン出店</p> <p>2002年(平成14年) 第10回優良フードサービス事業者「地域活性化部門」農林水産大臣賞受賞</p> <p>2005年(平成15年) うどん店100店舗達成</p> <p>2012年(平成24年) ソウル明洞店オープン</p> <p>2013年(平成25年) ビストロ天神昭和通り店オープン</p>
---

## 第 41 回（平成 25 年度）経営者賞

	<p><b>3. 先導性、成長力</b></p> <p>(1) 「24 時間営業の開始」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・昭和 41 年 7 月に 24 時間営業を開始。当時としては飲食業の 24 時間営業は珍しく画期的なものだった。</li></ul> <p>(2) 「粗利益折半制度の導入」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「経営は家業」という考えのもと、本制度を昭和 48 年に導入。</li><li>・制度の仕組みは、外部または自社の独立希望者から経営パートナーを募集し、店舗物件の選定・建築・家賃支払い・食材やレシピの提供はすべて同社が請け負うも、経営はパートナーに委託するというもの。粗利益は同社とパートナーで折半する為、独自の経営努力による店舗運営で様々な店舗づくりを行っている。</li></ul> <p><b>4. 地域、業界への貢献</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「アビスパ福岡のオフィシャルスポンサー」・・・スタジアムでの臨時売店でのスポット出店や選手の食事サポートを実施。</li><li>・「地元企業等への協賛」・・・九州で芸能活動を展開する「福岡よしもと」への協賛を通じて地域の活性化に貢献。</li></ul> <p><b>5. CSR・・・企業市民の社会的責任としての地域貢献活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「地域貢献活動」・・・ウエスト全店でうどん玉、そば玉の消費分(1玉1円換算)を毎年寄付。</li><li>・「東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)義援金活動」・・・2011年(平成23年)4月11日に国内のウエスト全店で当日の売上金全額を寄付する特別営業を実施。総額4,190万円寄付。</li></ul>
--	---

## 第 41 回（平成 25 年度）経営者賞

氏 名	河内 旭氏 (AKIRA KAWAUCHI)		
生年月日(年齢)	1946 年(昭和 21 年) 1 月 9 日 (68 歳)		
企業名・役職	三友機器株式会社・代表取締役会長&CEO		
所在地	福岡市中央区大手門 1-1-3		
事業内容	食品包装・畜産環境プラントの設計・施工		
資本金	50,000 千円		
主要株主	株式会社三友工業ホールディングス(愛知県小牧市) 100%		
従業員数	123 人		
創業・創立	創業・創立 1975 年(昭和 50 年)11 月 1 日		
工場・営業所	本社・九州工場・名古屋工場・東京営業所・名護屋営業所・大阪営業所 出張所(関東・北海道・中四国・南九州・沖縄)		
関連会社	(株)小西ボディー		
年間業績 (単位:百万円)	売上高	経常利益	自己資本比率
2013 年 12 月	8,850	709	49.8%
2012 年 12 月	14,736	1,074	48.9%
2011 年 12 月	6,271	384	41.5%
2009 年 12 月	7,121	594	50.1%
受賞理由	<p><b>【主な受賞理由】</b></p> <p>1.当社は、食品製造機械・環境機械の設計施工を長年手がけ、その実績に裏付けされた技術力を生かし、清涼飲料業界の缶コーヒー、茶系飲料等の大量生産、ラインオペレーションの省力化を可能にする機械設備の開発・製造を次々に手掛け、工場設備のトータルエンジニアリング会社として確かな地歩を築いていること。</p> <p>2.「真面目にお客様に気に入ってもらおうこと」、「三友にいてよかったと社員が思える会社になりたい」という河内氏の誠実な人柄、熱心な営業力が、長年培った人脈を結びつけて社業の発展、清涼飲料業界の発展に寄与していること。</p> <p><b>【当社の概要】</b></p> <p>・当社は、愛知県に本店を置く三友工業(株)グループ(同社の 100%子会社)であるが、福岡市に本社を置き、食品製造機械・環境機械の設計施工を長年手がけ、河内氏の熱心な営業力と長年の実績に裏付けされた技術力を強みに、飲料メーカー等の工場設備納入、更新、メンテナンスだけでなく、清涼飲料業界の缶コーヒーの大量生産を可能にする業務用大型ドリップ抽出器の開</p>		

## 第 41 回（平成 25 年度）経営者賞

発・製造、より急須での風味に近い茶系飲料用抽出器の開発・製造、清涼飲料のラインオペレーションの大幅な省力化のための省力化機械の開発・製造などを次々と成し遂げた。

・また、2012 年(平成 24 年)には UCC 上島珈琲(株)からその技術力と実績を買われ従来の充填包装ラインだけでなく生産設備すべての責任施工を行い、以後の工場設備トータルエンジニアリング会社としての飛躍のきっかけとなった。

・特に、河内氏は当社の前身である(株)三友サービスセンターの初代所長時代から 2007 年(平成 19 年)の社長就任後会長職の現在まで、製造技術の改善に尽力し、前進を進めてきた中心的な存在として会社の発展に尽くすと共に社会貢献にも努力してきた。

### 1. 経営理念・哲学

《会社の経営理念・哲学》

(社是)

- ・「人柄と技術の向上に努めよ」
- ・「全てに誠実を尽くせ」
- ・「原理原則を守れ」
- ・「物資を大切にせよ」
- ・「改善と前進に努めよ」

《候補者本人の経営哲学・人物像》

・河内氏は、企業が発展するには常に改善が必要であり、当社では「現状維持は後退につながる。前進しなければならない」との考えから、常に改善と前進に努めてきた。食品関連部門や繊維関連部門はもとより、近年ますます深刻化する環境問題にも積極的に取り組み、他社とは一味違う、常に時代の一步先を行く商品を提供し続けたいと考え、経営に取り組んでいる。

・そのために先ず必要なのが「人」であると考え、創業者である故野畑由博氏の「皆が健康で、定年になったとき、”三友にいてよかったなあ”と思える会社でありたい」という言葉を会社経営の基本とする当社では、全社員がこれを胸中に銘記して社業に取り組んでいる。

(略歴)

- ・1946 年(昭和 21 年)1 月 熊本県生まれ
- ・1965 年(昭和 40 年)4 月 (株)三友工業所入所
- ・1975 年(昭和 50 年) 三友機器販売(株)設立とともに取締役就任
- ・1984 年(昭和 59 年) 三友機器販売(株)を整理、三友機器(株)を設立  
常務取締役就任

## 第 41 回（平成 25 年度）経営者賞

<p>・1995 年(平成 7 年) 専務取締役就任</p> <p>・1998 年(平成 10 年) 代表取締役専務就任</p> <p>・2007 年(平成 19 年) 代表取締役社長就任</p> <p>・2013 年(平成 25 年) 代表取締役会長就任</p> <p><b>2. 業歴、業績</b></p> <p>・当社の前身は 1971 年(昭和 46 年)三菱菱重食品包装サービスエンジニアリング(株)のサービス代理店として(株)三友工業所九州サービスセンター(福岡市中央区)を開設(初代所長 河内旭氏)、1975 年(昭和 50 年)にサービス代理店契約解消の後、当時の北九州コココーラ等 3 社からの推薦で飲料設備機械メンテナンスを業務に三友機器販売(株)を設立した。</p> <p>・その後も販路拡大のため全国に出張所を出し、ネットワークを構築するも、2005 年(平成 17 年)にはそれらの業務拡張を完全無借金経営で成し遂げた。</p> <p>・2012 年(平成 24 年)には今までの技術と信頼性の蓄積をもとに UCC 上島珈琲(株)から生産ラインすべての責任施工を請け負い、工場設備トータルエンジニアリング会社への脱皮の足掛かりをつかんだ。この大型受注を理由に 2012 年度(平成 24 年度)は売上高前期比 2.3 倍の 147 億円、経常利益前期比 2.8 倍の 10 億 7 千万円の実績をあげた。</p> <p><b>3. 先導性、成長力</b></p> <p>・清涼飲料業界への多大の貢献となったニーダー抽出器やドリップ式抽出器、茶葉分離装置等多種多様な食品関連機器の開発、製造力は長年の人材育成、技術開発力に裏打ちされたものである。また、それら単体の機器をトータルで生産ラインとして責任施工する力も持ち合わせている。</p> <p>・環境関連機器では急速発酵堆肥化装置「コンポ富士」の改良を続けて、SK シリーズとして地球温暖化防止に役に立つ製品作りを行うなど環境関連機器においても技術を蓄積している。</p> <p>(主な特許)</p> <p>・1995 年(平成 7 年) 11 月 26 日 特許 コンベア潤滑洗浄機</p> <p>・2005 年(平成 17 年) 9 月 16 日 特許 容器集合方法及び集合装置</p> <p>・2007 年(平成 19 年) 2 月 7 日 実用新案 横型飲料抽出装置</p> <p>・2007 年(平成 19 年) 4 月 25 日 実用新案 プリフォーム整列装置</p> <p>・2008 年(平成 20 年) 7 月 31 日 特許 物品のエア搬送装置</p> <p>・2008 年(平成 20 年) 1 月 16 日 特許 冷凍食品の解凍装置</p> <p>・2013 年(平成 25 年) 6 月 14 日 特許 製品液が充填され密閉されている容器のねじ部における製品液残留成分検査装置及び検査方法</p>
---

## 第41回（平成25年度）経営者賞

	<p><b>4. 地域、業界への貢献</b> (清涼飲料業界への貢献)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・1982年(昭和57年)には業務用大型ドリップ抽出器を開発・販売、それまでの缶コーヒーの製造工程を一変させ、コーヒーの持つ風味を損なうことなく大量生産が出来るようになったことでこれまでの清涼飲料メーカーの夏型一辺倒から「ホット缶コーヒー」冬型商品の普及を促進、清涼飲料業界に多大の貢献をすることになった。</li><li>・また1987年(昭和62年)にはより急須の風味に近い茶系飲料用抽出器として「ニーダー」を開発・販売、缶コーヒー同様茶系飲料の大量生産体制を可能にし、清涼飲料業界に大きな貢献をすることになった。さらには清涼飲料業界のラインオペレーションの省力化、省人化を可能にする集中監視システムを開発・販売、生産性向上に大きな力となるなど数多くの省力化設備の開発・販売を行った。</li></ul> <p><b>5. CSR・・・企業市民の社会的責任としての地域貢献活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・2009年(平成21年)3月 近隣の市立舞鶴中学校へ伝言板寄贈</li><li>・2010年(平成22年)11月 麻生彰久氏(公益財団法人日本ラグビー協会レフェリー)の長男修希君の米国での心臓移植手術「修ちゃんを救う会」支援のため、募金協力</li><li>・2011年(平成23年)3月 東日本大震災に対し、飲料水と義援金を寄付</li><li>・2012年(平成24年)11月 平成26年NHK大河ドラマ黒田官兵衛の成功を祈願して西公園光雲神社に幟を寄贈</li></ul>
--	---

第 41 回（平成 25 年度）経営者賞

氏 名	山本 厚生氏 (ATSUO YAMAMOTO)		
生年月日(年齢)	1941 年(昭和 16 年)1 月 2 日 (73 歳)		
企業名・役職	株式会社フジコー・代表取締役社長		
所在地	北九州市戸畑区中原西 2 丁目 18-12		
事業内容	複合金属製品・環境プラント向製品の製造・販売・補修、操業関連作業、光触媒製品の製造・販売		
資本金	100,000 千円		
主要株主	山本厚生(25.8%)、(株)アソトフジ(17.0%)他		
従業員数	779 人		
創業・創立	創業 1952 年(昭和 27 年)4 月 1 日／創立 1958 年(昭和 33 年)7 月 30 日		
工場・営業所	工場(仙台、山陽、若松響、開発センター)、事業所(小倉、仙台、君津、京浜、加古川、倉敷、福山)、営業拠点(九州支店、西日本支店、関西支店、関東支店)		
関連会社	(株)アソトフジ、(株)フジケア、富士栄工業(株)、(株)マスクフジコー		
年間業績 (単位:百万円)	売上高	経常利益	自己資本比率
2013 年 3 月	9,788	123	9.5%
2012 年 3 月	10,240	215	9.1%
2011 年 3 月	8,773	56	9.8%
2010 年 3 月	8,042	-155	9.6%
受賞理由	<p><b>【主な受賞理由】</b></p> <p>1. 鉄鋼関連の製品製造・販売・補修等を主業務として、鑄型補修や高度容射技術など 200 を超える特許申請・取得をして、たゆまぬ技術開発努力を続け、新規事業にも高度な技術を活かし新たな可能性に挑戦する地域の製造業としての存在感を高めていること。</p> <p>2. 二代目社長として最初に経験した社員の大規模リストラを教訓に「社員を辞めさせる必要のない会社づくり」を生涯の経営指針として社員の福利厚生改善、人材育成に取り組んでいること。</p> <p>3. 地域への貢献活動としてグループホームやデイサービスセンター等の高齢者福祉・介護事業に取り組んでいること。</p> <p><b>【当社の概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当社は鉄鋼関連の製品製造、販売、補修等を主業務としており、全国に 15 カ所の事業所・工場を所有。</li> <li>・昭和 27 年に創業、当時不可能と言われていた鑄型の修理法を開発、業績を伸ばしたが、オイルショックによる鉄冷え、鑄型の修理を必要とし</li> </ul>		

## 第 41 回（平成 25 年度）経営者賞

ない製鉄技術の普及などで経営が苦しくなり従業員の半分をリストラするなど苦境にあえいだ時期もあった。

・しかし、その間も研究開発を継続、使用済みロールを芯材として再生する CPC 技術、機械部品の表面を溶接で肉盛りし修復するハードフェイスング技術など、金属表面処理技術をベースにした独自の開発力で新規事業を開拓してきた。

・現在 200 を超える特許申請・取得をしており、2012 年（平成 24 年）2 月に経産省主催の「ものづくり日本大賞」特別賞受賞、2013 年（平成 25 年）10 月に経産省後援の「資源循環技術・システム表彰」経産省産業技術環境局長賞を受賞。

・高度技術による新規事業の一例として、約 10 年の研究開発期間をかけ、当社の溶射技術を駆使した消臭殺菌タイル、空気消臭殺菌装置等の製品化に成功したことがあげられる。

・2～3 年前より北九州市内の公共施設、空気清浄器の小売りにて徐々に販路拡大して、現在では全国の病院、ホテル、学校、建設会社、海外の大使館等より多数の問い合わせがあり、交渉・契約成立が増加している。

・今後、当社の光触媒製品の広まりにて全国の民間・公共施設での消臭殺菌性能向上が期待できる。

### 1. 経営理念・哲学

《会社の経営理念・哲学》

・技術を生命線とし、あらゆる企業のニーズに対応できる、専門的・高度技術集団の確保と育成を常に志し、ユーザーに「フジコーでなくてはダメだ」と言われるような、「期待と信頼度の高い企業」を構築すること。

《候補者本人の経営哲学・人物像》

・「社員を辞めさせる必要のない会社づくり」・・・社長就任後の初仕事が大規模なリストラだったことから、生涯にわたる経営指針となる。

・「今後も技術力を磨いて、世界に名だたる企業へ」・・・経営危機に際して、研究開発に活路を見出したことによる。（特許と実用新案は取得済みのものだけで 100 を超えている）

### 2. 業歴、業績

・2013 年（平成 25 年）3 月期 売上高 9,788 百万円（前期比▲451 百万円）  
経常利益 123 百万円（前期比▲91 百万円）

・売上高減少要因としては、平成 24 年 3 月期において、東日本大震災の復旧工事受注の特需により前期比減少したものの。

## 第 41 回（平成 25 年度）経営者賞

<p>・平成 26 年 3 月期においては、POSCO 等を主体に既存取引先への販売強化、新規先の開拓などにより、売上高 10,000 百万円、経常利益 150 百万円を見込んでいる。</p> <p><b>3. 先導性、成長力</b> 以下のような画期的な技術を開発し、新規事業分野を創造している。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・鋼塊鑄型補修技術…製鋼プロセスで消耗品として廃棄されていた鑄型を、世界で初めて再生使用することを可能にした。</li><li>・溶射法による高殺菌材料被膜化技術・・・タイル・内装ボード、空気清浄器等に利用でき、生活空間全体の浄化が可能。</li><li>・CPC（ロール・ローラー）・・・使用済ロールを芯材として再利用し、再生するもの。新規に製造するのに要するエネルギーを約半分に抑えられる。</li></ul> <p><b>4. 地域、業界への貢献</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・MaSSC（マスク）シールドの開発・・・「光触媒」と「殺菌金属」のハイブリッドによる特殊素材。北九州市営モノレール・JR小倉駅等の公共機関に採用。</li><li>・大型圧延ロールリサイクル事業開始・・・使用後は廃棄処分されていた圧延ロールをリサイクルすることで、価格を 20% 減、納期を半分に短縮することが可能。2010 年には、韓国鉄鋼大手POSSCOより、4 億円の受注。</li></ul> <p><b>5. CSR・・・企業市民の社会的責任としての地域貢献活動等</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・高齢者福祉・介護事業として、平成 17 年 9 月、株式会社フジケア設立（北九州市小倉北区高峰町） 「グループホーム高峰」・・・認知症対応型共同生活介護施設 「グループリビング芙蓉峯」・・・住宅型有料老人ホーム 「デイサービスセンター富士山・たかみね」 （北九州市小倉北区都） ※施設全体に光触媒を導入 「グループホーム都の杜」・・・認知症対応型共同生活介護施設 「グループリビング都の杜」・・・住宅型有料老人ホーム 「デイサービスセンター都の杜」 「小規模多機能ケア都の杜」</li></ul>
---

## 第 41 回(平成 25 年度)「経営者賞」受賞者



株式会社ウエスト  
名誉会長  
境 豊作 氏



三友機器株式会社  
代表取締役会長兼 CEO  
河内 旭 氏



株式会社フジコー  
代表取締役社長  
山本 厚生 氏